

[18-7] 村からみた農業開発  
福井 捷朗

(1984年度東南アジアセミナーでの講演から)

[0] DD調査の狙い (略)

[I] 東北タイの位置づけ (略)

[II] DDの概要 (略)

[III] 主穀作物生産の停滞

- イ. DDで米が商品作物化されていない理由  
もち米/低生産性/生産の不安定性/インフラの欠如
- ロ. 米の商品化が進んだのはどこか?  
デルタ/二期作地帯/苛斂誅求  
米が商品化されていないDDは例外ではない?
- ハ. DDで米の生産性が向上すれば米の商品化が進行するか?
- ニ. 主穀作物の商品化を前提としない農業開発を考えねばならないか?  
自給的生産を主としながら農村開発は可能か?  
自給的生産を主とする限り農村開発はないのか?

[IV] 輸出需要と市場インフラの整備による生産増大

- イ. DDの体験: 棉/ケナフ/キャサバ/農業の貨幣経済化
- ロ. 需要: 需要の短期継続性/需要の海外依存
- ハ. インフラの整備: 戦略道路/自由市場/公的機関の不介入
- ニ. 資源: 未利用資源の活用/資源掠奪的生産
- ホ. 問題: 資源の永続的利用と競争原理による生産性の向上は両立し得るか?  
海外需要への依存と零細な経営主体とを前提として、健全な農業/農村発展  
がありうるか?

[V] 労働集約的農業

- イ. DDの経験: 需要/道路/資源(水、労働)/技術/多投入
- ロ. 需要: 都市化の程度/海外市場(アグロインダストリー)
- ハ. 資源: 水と土壌/永年作物の可能性
- ニ. 効果: 低利用資源の有効利用/農村収容人口の増大/人口圧力の緩和
- ホ. 問題: 将来の可能性

[VI] 出稼ぎと兼業化

- イ. DDの事例: 遠隔地への長期出稼ぎ/第一次産業に従事/近郊都市への出稼  
ぎ/第二次産業に従事/女性の増加/通勤兼業/村内雑業/海外出稼ぎ

- ロ．需要：新産業の一時的労働力不足／地方都市の発達／地方の工業化／村内経済の変化：国際情勢
- ハ．交通立地：鉄道／道路／ソントオ
- ニ．労働の質の向上：公的教育／教育投資／少数の華僑／企業家的農民：
- ホ．問題：通勤兼業が可能な範囲／完全な離農につながるか／農外収入の安定化／兼業化は村内収容可能人口を増大させるだけか？

[VII] 開拓と農村間人口移動

- イ．DDの開拓者：はみだし者でない開拓者／伝統的価値観の護持者／HNDの歴史の古さ
- ロ．HNDを可能ならしめる条件：土地資源／治安／土地制度／伝統的生活／男女の役割分担（土地相続は女系偏重でも女系家族ではない）
- ハ．HNDの今日的意味：離村であっても離農ではないHNDから、離村であり同時に離農であるHND／教育投資の意味／村内人口の流出を前提とした家族設計／それと整合性のある地域、国家開発計画／非農セクター、域外開発をも取り入れた計画の必要性（農業生産性の向上に偏重した農村開発政策の誤り）

[VIII] 農業開発と農村開発の乖離

- イ．農業開発優先：食糧自給／輸出農作物の増産による外貨獲得
- ロ．農村開発の優先：都市への人口流入の軽減／都市農村間の較差の解消
- ハ．両者が両立する場合：開拓前線の存在（植民地経済体制化の東南アジア）／土地面積規模の拡大による生産の効率化が政治的に許容され得る場合（エンクロージャー、非農セクターの労働需要が十分に大きい場合）／集約化による増産を促進するに足るだけの需要がある場合（集約化がinvolutionを結果するだけでない場合）
- ニ．両者が両立しない場合：開拓前線の消滅／農村人口の減少が許容されえない場合／集約化が農村収容人口の増大を可能にするのみで、所得較差の解消に働かない場合
- ホ．DDの場合：HNDの減少／行方不明の離村者／野菜栽培の将来性への不安／米生産の増大効果への疑問
- ヘ．解決の糸口：開拓前線の延長（e. g. 南タイ）／集約栽培産物の市場開拓と安定化（海外市場と外国資本の導入が不可避？）／兼業化？？？